

2020 年 5 月 18 日

各位

会社名 株式会社PKSHA Technology
(コード 3993：マザーズ)
住所 東京都文京区本郷 2-35-10 本郷瀬川ビル 4F
代表者 代表取締役 上野山 勝也
問合先 取締役経営管理本部長 中田 光哉
(03-6801-6718)

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時 2020 年 5 月 15 日 16：00～16：45
開催方法 電話会議形式による開催
説明会資料名 2020 年 9 月期 第 2 四半期 決算説明資料

【添付資料】

1. 投資説明会において使用した資料

2020年9月期 第2四半期決算説明資料

株式会社PKSHA Technology
(東証マザーズ 3993)



2020年5月

本資料に記載された予測、見通し、意見などは、2020年5月15日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢並びに当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは、様々な要因の変化等の事由により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。

ハイライト

1	2019年9月期 第2四半期決算概要
2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響
3	事業拡大の取り組み
4	当社の立ち位置

2020年9月期 第2四半期 業績概要

- 売上・利益ともに順調な進捗となっています。

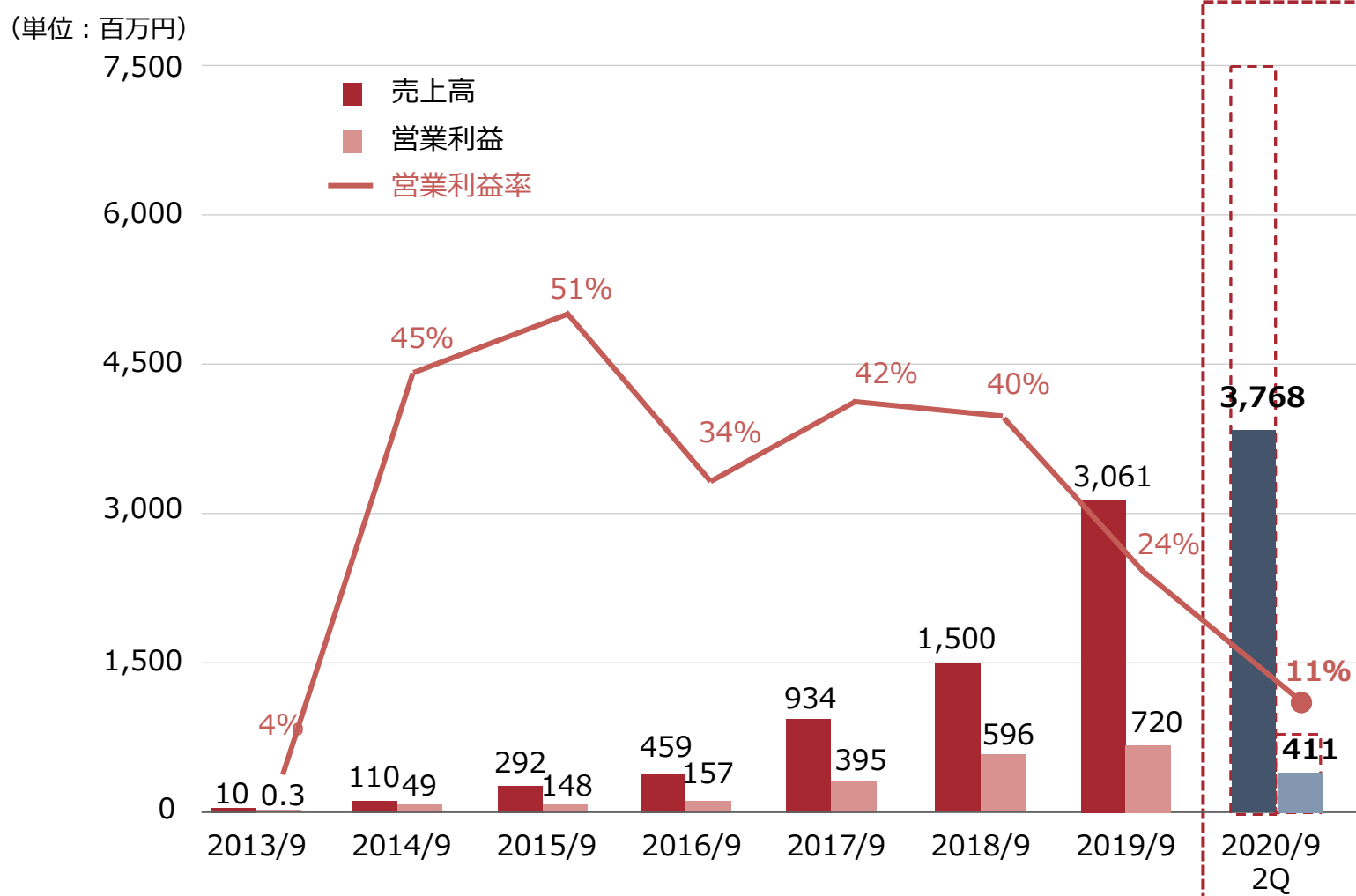
(単位：百万円)

	2019/ 9 期 第 2 四半期	2020/ 9 期 第 2 四半期	前年度比	2020/ 9 期 通期計画	進捗率
売上高	1,110	3,768	+239.5%	7,500	50.2%
営業利益	398	411	+3.1%	750	54.8%
経常利益	389	419	+7.7%	710	59.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	250	245	-2.1%	450	54.4%

(注) 連結ベース

2020年9月期 連結業績推移

- 今期はアイテック社（アイドラ社グループを2019年12月末に合併しアイテックに改称しております）の連結により、高い売上成長を計画しております。
- 営業利益率は低下する計画ですが、アイテック社連結によるミックス変化および先行投資の実行によるものです。



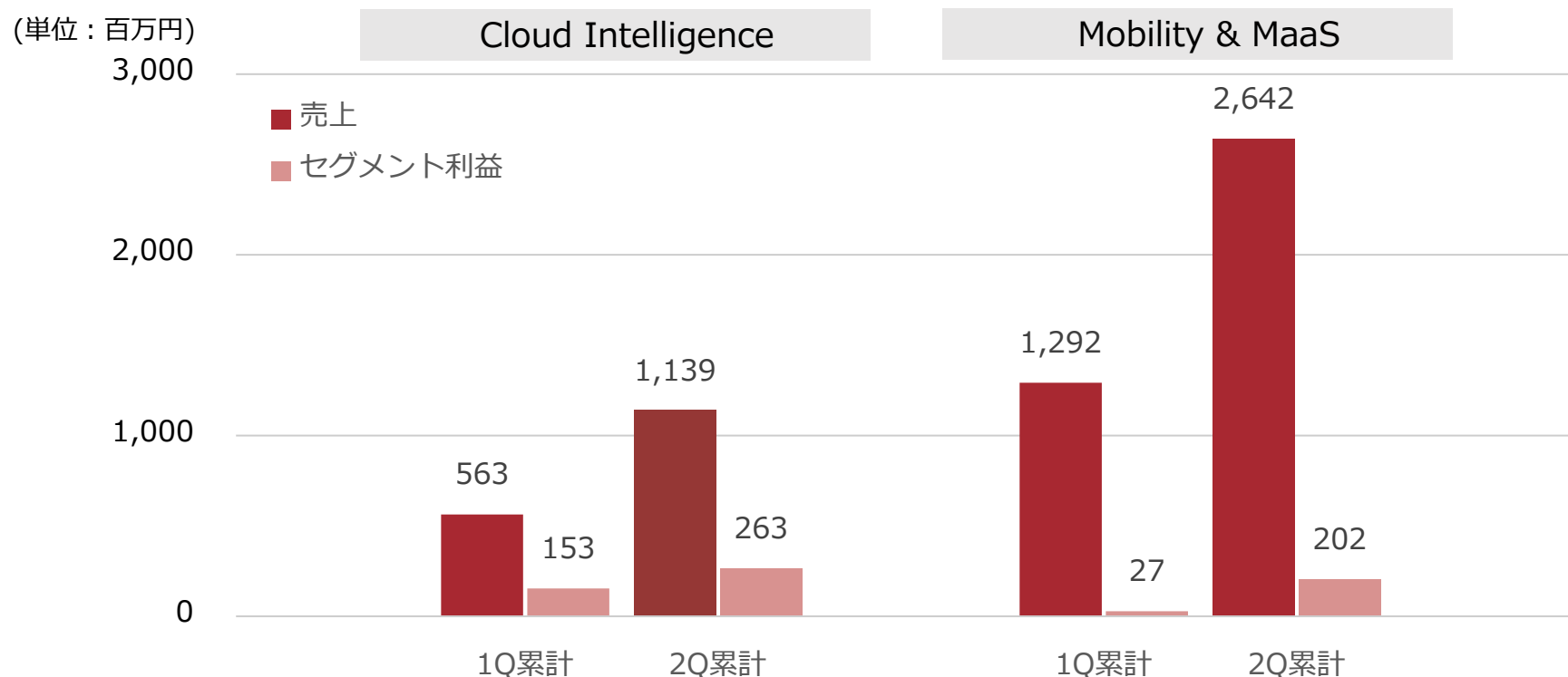
2020年9月期 第2四半期 事業セグメント業績

- Cloud Intelligence事業：デジタル空間上で行われる処理を知能化させていく領域

自社製品のアルゴリズムソフトウェア「BEDORE」の拡販が進みました。アルゴリズムモジュール（顧客企業向けのカスタマイズ開発によるアルゴリズムライセンスビジネス）については、エンジニアリソースを新規事業/プロダクト開発の先行投資に投入したことで利益率は低下しています。

- Mobility & MaaS事業：Smart City化に向けたリアル空間のオペレーションを知能化させていく領域

子会社アイテック社の機器販売が堅調に推移しました。販売製品ミックス変化により粗利率が改善するとともに、第1四半期に計上していた管理体制強化のための販売管理費負担が第2四半期はなくなったことで利益率が改善しています。



連結貸借対照表

- 2月20日から3月5日にかけて総額957百万円の自己株式の取得を行いました。原資は短期借入金によります。
- 投資その他の資産の増加は、主に投資有価証券が2,206百万円増加したことによるもので、時価評価による約1,790百万円の影響が含まれます。

(単位：百万円)

	2019/9期	2020/9期 2Q
流動資産	24,389	24,136
現金及び預金	22,614	22,207
固定資産	5,949	8,113
投資その他の資産	1,869	4,069
繰延資産	83	65
総資産	30,421	32,314
流動負債	1,325	2,240
短期借入金	—	957
固定負債	2,443	2,970
純資産	26,652	27,104
自己株式	—	△957
その他有価証券評価差額金	5	1,155

ハイライト

1	2019年9月期 第2四半期決算概要
2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響
3	事業拡大の取り組み
4	当社の立ち位置

新型コロナウイルス感染症拡大の影響（2020年5月15日時点）

当社グループの 運営状況

業務遂行への影響はほぼ出ておりません。

- 従業員をはじめとしたステークホルダーの皆様の安全確保の観点から、当社では2月より段階的にリモートワークへ切り替えました。大部分の業務をリモートワークにより遂行しております。
- 顧客とのコミュニケーション、採用面接等は原則的にリモートで行っております。
- 現時点において当社グループ従業員の中に確認できた罹患者の発生はありません。

今期業績への 影響

現時点で当期業績に与える影響は軽微と想定していることから2020年9月期の連結業績予想については変更ありません。

- 第3四半期、第4四半期にかけての短期的な業績への影響については、主に以下の2点による売上・営業利益へのマイナス影響を想定しています。
 - 1) 顧客向けにアルゴリズムのカスタマイズ開発を行うアルゴリズムモジュールの案件で、大手企業の顧客の一部において受注が先送りとなる事例が見られます。
 - 2) アイテック社において、運営会社の新規駐車場開設のペースダウンが想定され駐車場機器販売が減少する可能性があります。
- 新型コロナウイルス感染症拡大による既存ライセンスの解約は現時点では出ておりません。
- 今後の環境変化次第では関連会社株式・投資有価証券の一部について減損の発生が考えられます。

経営環境の動向を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

新型コロナウイルス感染症による経営方針への影響

- 今期から長期的な事業拡大へ向けて先行投資を行っておりますが、その方針は変更しません。
- むしろコロナショックを契機におきるであろう構造変化を機会ととらえ、特にCloud Intelligence領域における投資は積極化していきます。
- 一方で、既存事業についてはより堅固な収益構造を目指し、収益管理の徹底やより厳選した人材採用を行っていきます。

新型コロナウイルス感染症拡大による社会変化

経済環境の変化による企業の効率化ニーズの高まり

移動や対面コミュニケーションの制限による
リアル空間での対人接点の減少

経済の先行き懸念による雇用環境の悪化

当社にとっての成長機会

デジタル化が遅れていた業界における
DXニーズに伴うアルゴリズム案件の獲得
(アルゴリズムモジュール事業の進展)

遠隔ワーキング/遠隔コミュニケーションを
サポートするソフトウェアの導入増加
(アルゴリズムソフトウェア
BEDORE/CELLORの販売)

優秀な人材の採用機会の増加

ハイライト

1

2019年9月期 第2四半期決算概要

2

新型コロナウイルス感染症拡大の影響

3

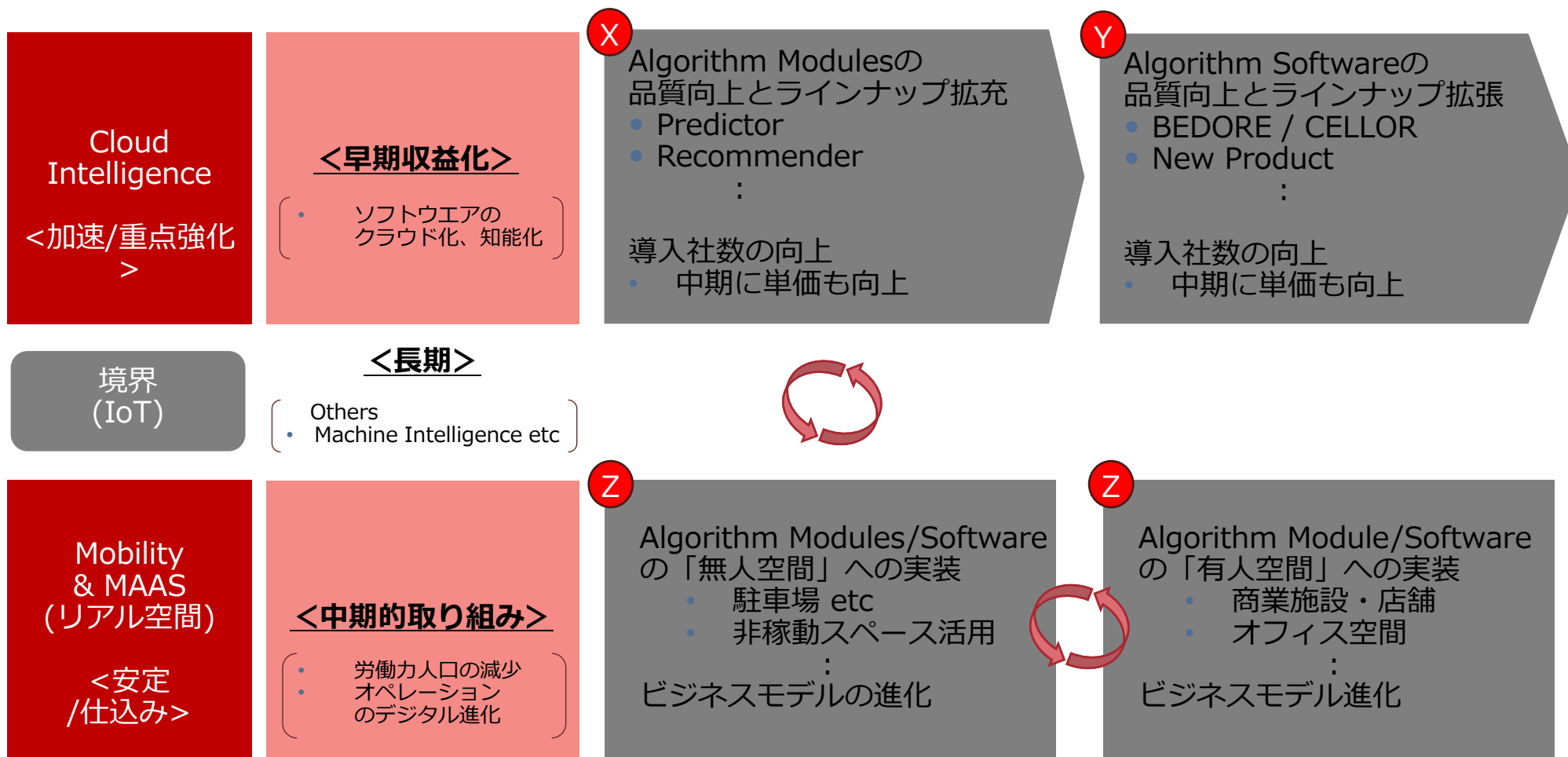
事業拡大の取り組み

4

当社の立ち位置

直近の方針：「Cloud Intelligenceの“重点強化”[加速]」 +「Mobility MaaS の手堅い事業拡大[仕込み]」の2本柱

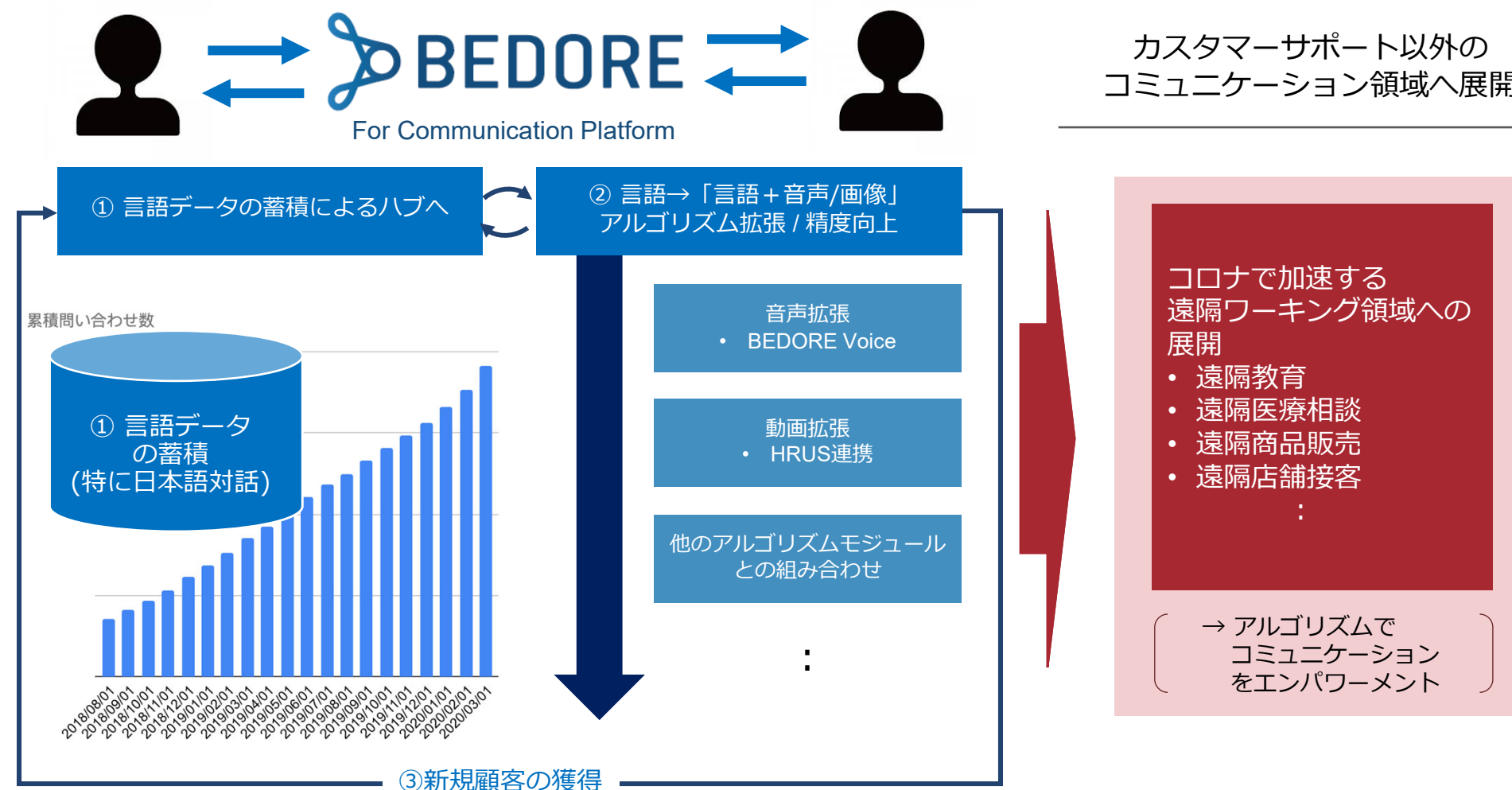
- 人材採用/組織的強化に加えて、Cloud Intelligence 領域と、Mobility & Maas領域 に重点投資を行います。
- ①既存事業成長、②先行投資費用増加、③先行投資の果実獲得、のバランスを取りながら 投資分野 を分配します。



MaaSとしての進化&相乗効果

Cloud Intelligence特定領域の強化： Communication Technology Platform としての「BEDORE」の展開加速

- BEDOREの思想：遠隔×コミュニケーション×アルゴリズム Withコロナで更に加速
- BEDOREのPlatform化：① 日本語会話データのハブ + ② 言語→「言語+音声/画像」 + ③新規顧客の獲得

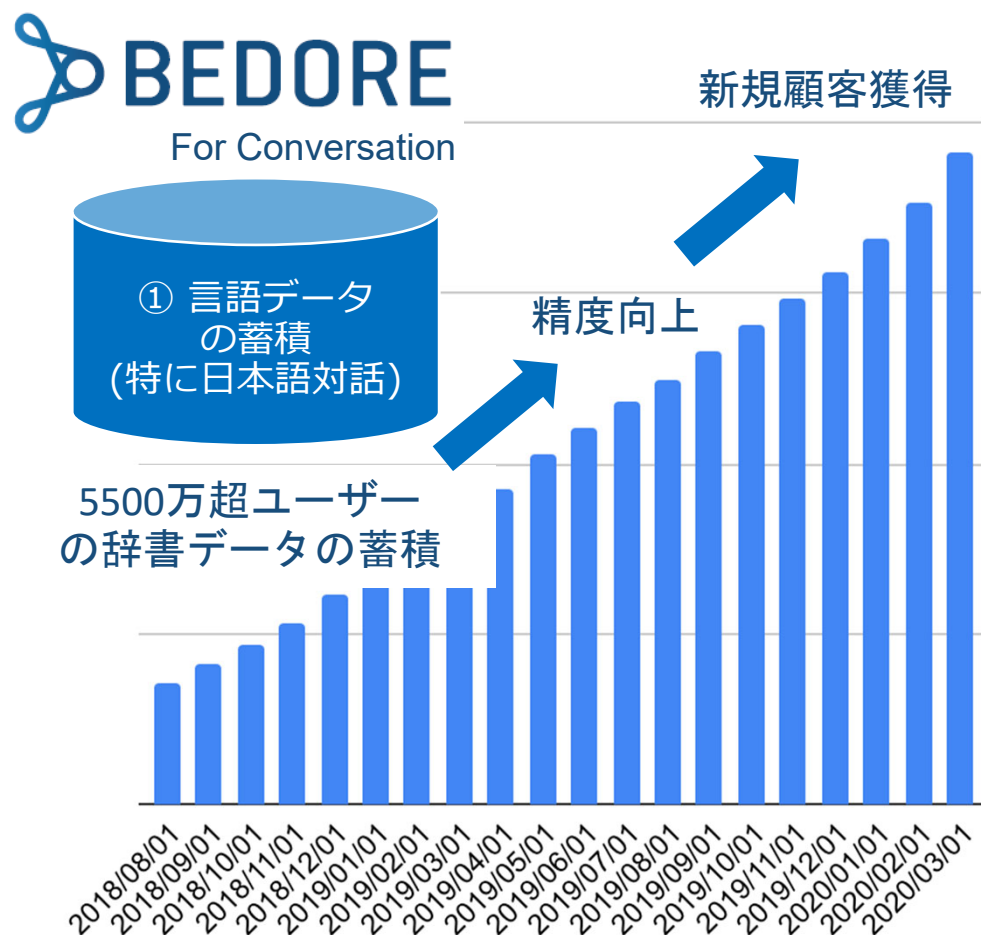


BEDOREのPlatform化①：日本語コミュニケーションデータのハブへ

- 対象市場の1st mover である強みを生かし、データ蓄積→精度向上→新規獲得、の好循環ループを確立しています。

対話トランザクション数の堅調な積み上がり
→ データの蓄積による好循環の実現

コロナでの突発ニーズにも
柔軟に対応



ソフトウェアであるため
コロナ中の問い合わせ増加にも
問題なく対応・解決

- 3月後半から30%程度の
問い合わせ数の増加

コンタクトセンターにおける
緊急事態宣言対応のため、
BEDORE Voice Conversation
の無償提供を開始

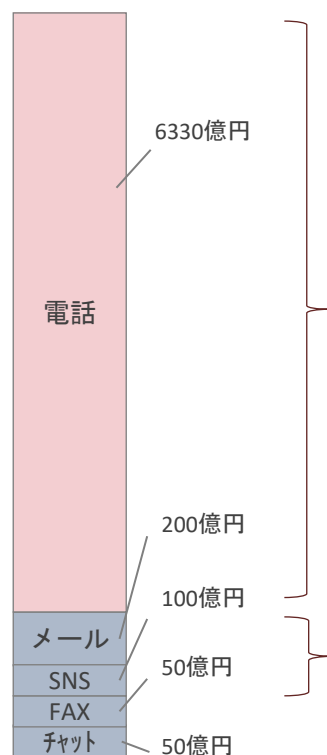
- 3ヶ月間の無償提供

BEDOREのPlatform化② : アルゴリズム拡張 / 精度向上

: 「言語」 → 「言語 + 音声/画像」 へのアルゴリズム拡張

音声拡張 : カスタマーサポート領域の“本丸”である「電話」へのプロダクト展開を開始. 導入が進展中

動画拡張 : V-tuber における表情解析エンジンの活用による、巣籠もり消費への対応



導入事例

- 大手新聞社 への導入完了
- 大手通販会社 への導入完了

:

 **BEDORE**
for Voice

 **BEDORE**
for Web/Line

 **HRUS**
for Face

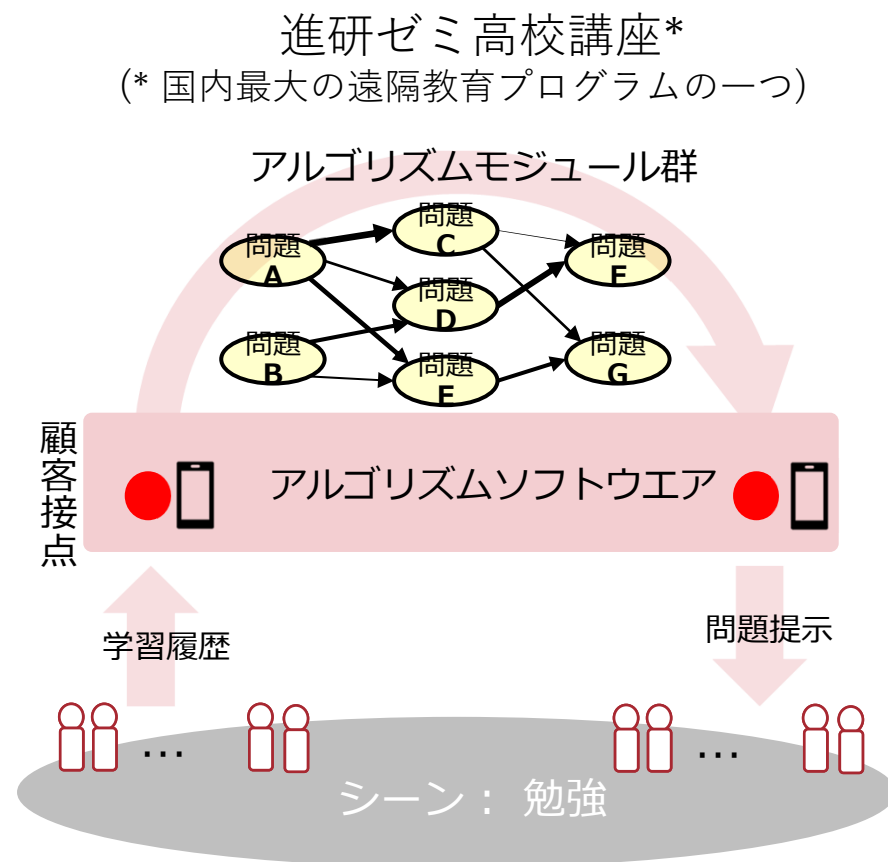


※ REALITY : グリー株式会社が運営するV-tuber Platform

カスタマーサポート以外のコミュニケーション領域へ展開 ： 遠隔 Communication Technology に関わるAlgorithm Module Projectが増加中

＜遠隔教育＞：

「進研ゼミ高校講座(ベネッセコーポレーション)」
学習プログラムにアルゴリズム提供し、学習支援



＜遠隔医療相談＞：

医療相談窓口 ファーストコールの問い合わせ対応
を半自動化し遠隔医療相談を推進



カスタマーサポート以外のコミュニケーション領域へ展開： コロナで店舗に人を配置できないケースにおいても遠隔接客支援を実現

店舗の遠隔支援：遠隔販売ソフトウェア
Cellor for Chat の展開



チャットでの遠隔接客を実現

→ デジタル上でも再現することで
企業のビジネス運用・成長をサポートします。



遠隔接客を実現

→ 従来の単なる画像広告を
インタラクティブに
→ サイト内チャットの呼びかけ後、
チャット対応をよりスマートに

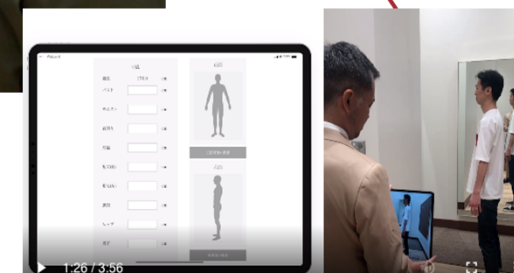
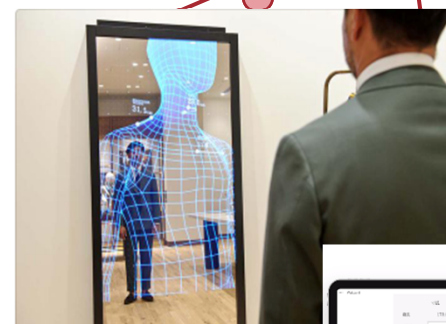


店舗の遠隔支援：販売店舗接客の支援
Sapeet の接客支援ソフトウェアの展開



Cloud

3Dモジュールによる
身体計測を通じた
スーツ販売



Mobility & MaaS： 各種バリューアップ施策にてアイテック企業価値を向上中

- 通常業務のバリューアップ施策の効果が早期に発現（昨年同期比増収増益）、継続した改善に努めます。
- 中長期に向けたデジタルバリューアップ施策の弾込めも順調、駐車場IRRの改善に向け業界のデジタル化を促進します。

子会
社化

通常業務のバリューアップ

デジタル/アルゴリズムによる
バリューアップ

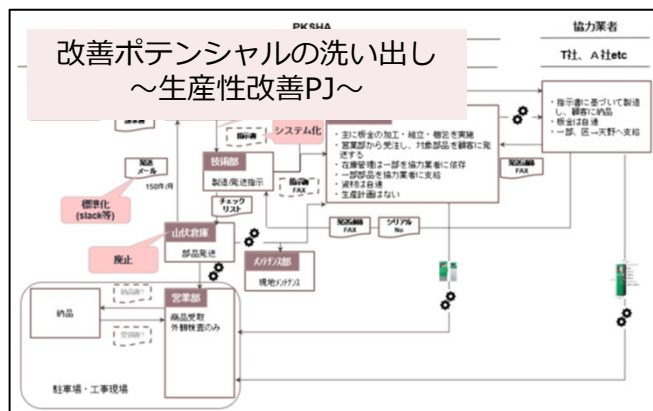
...
(and more)

業績改善

- 営業のPDCAサイクル早期化と効率化
- 新商品開発・投入のプロセス標準化
- コストの見える化
- 生産性改善PJの実施

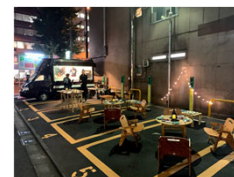
ガバナンス高度化

- コンプライアンス体制の強化
- 管理ツールのクラウド化



1) 駐車場データの利活用

- 利用単価↑：プライシング高度化
×
- 利用件数↑：満空情報活用による送客
(予約、他社連携、多目的利用)



2) フード トラック提携

- ### 3) コールセンターの半自動化
- チャットインターフェースと
ヒトとのハイブリッド



4) 決済/予約アプリの構築

ハイライト

1

2019年9月期 第2四半期決算概要

2

新型コロナウイルス感染症拡大の影響

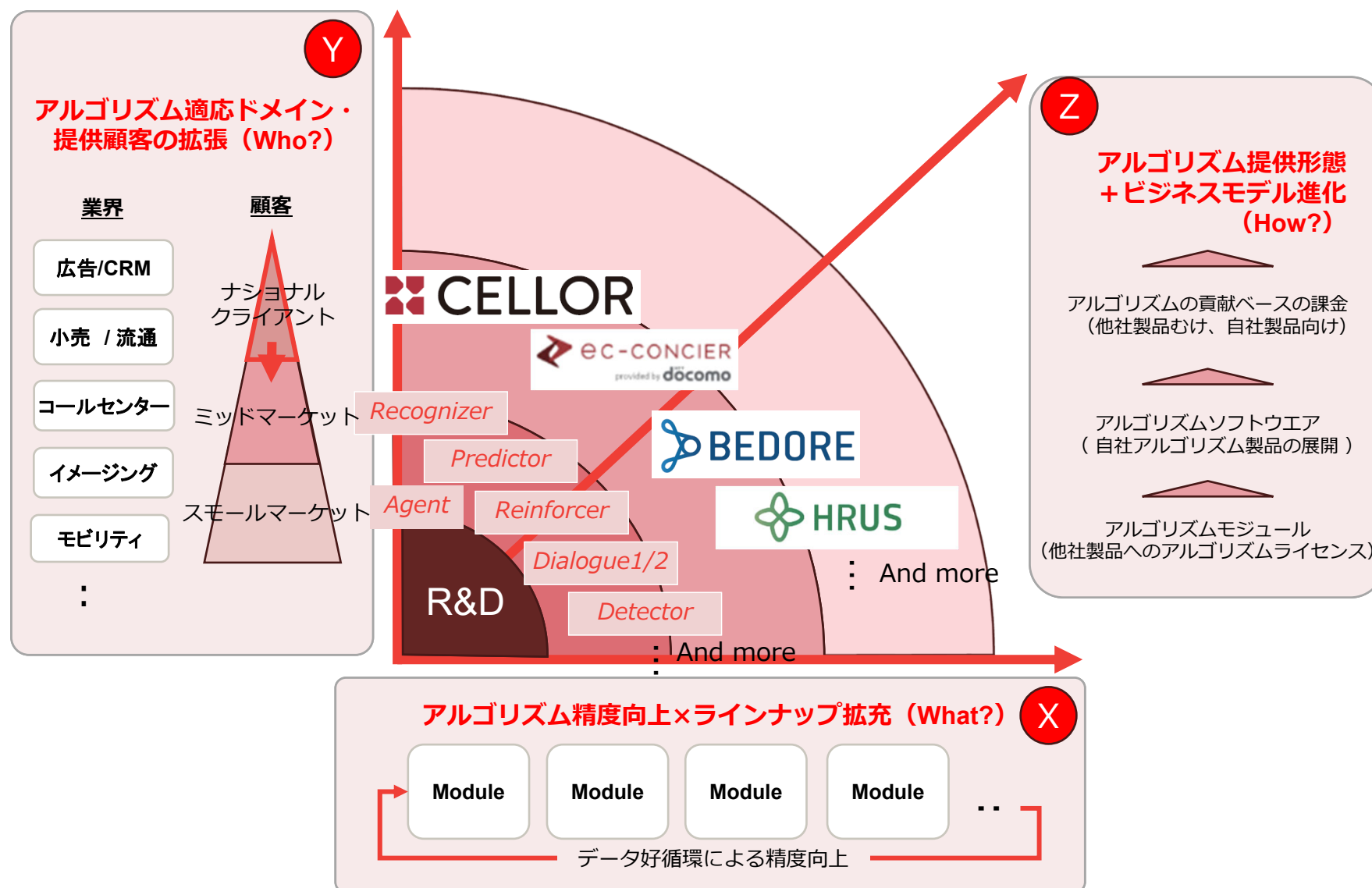
3

事業拡大の取り組み

4

当社の立ち位置

中期成長の3軸：アルゴリズムライセンスビジネスの展開図（方針 変わらず）



1st Moverとしてのポジショニング を更に活かしていく

- 当社は創業以来8年間に渡り、主に日本の大企業を協業先として、アルゴリズムによる社会課題解決を行ってきました。
- コロナウイルスによる社会経済の構造変化が起こりつつある中で、多くの大企業においても、これらの変化に対応すべくアルゴリズムによる課題解決ニーズが増加すると考えております。
- アルゴリズムサプライヤーとして国内における1st Moverである立ち位置を活かし、大企業と共同で課題解決に取り組んでまいります。

パートナーシップ戦略 (エントリー)



自動車	✓ トヨタ自動車 ✓ デンソー
キャリア	✓ NTTドコモ
銀行	✓ 大手メガバンク ✓ 大手地銀
教育	✓ ベネッセ コーポレーション[New!]
保険	✓ 東京海上HD [New!]
(TBD)	✓ TBD

: (and more)

企業価値向上につながる堅固な財務体質

- 十分な現預金があることから、積極的な成長投資が可能です。
- 減資により分配可能額を拡大させたことで、急激な市場変化に対しても柔軟かつ機動的な資本政策の実施余地があります。

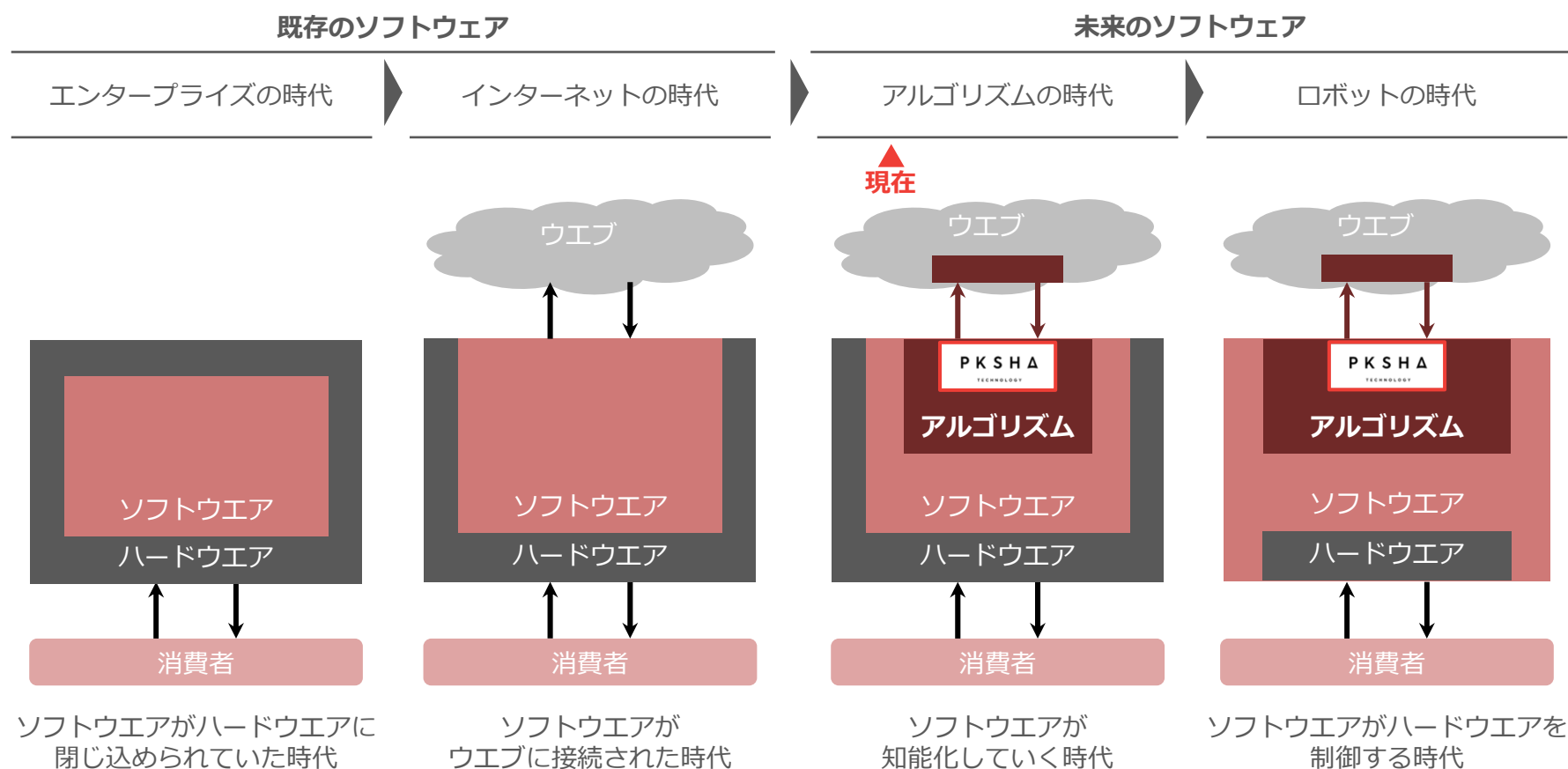
(単位：百万円)

2020/9期 第2四半期			
流動資産	24,136	流動負債	2,240
現金及び預金	22,207	固定負債	2,970
固定資産	8,113	総負債	5,210
有形固定資産	1,389	株主資本	25,946
無形固定資産	2,654	その他資本剰余金 (注)	12,550
投資その他の資産	4,069	利益剰余金	1,783
投資有価証券	3,808	その他有価証券評価差額金	1,155
繰延資産	65	新株予約権	2
総資産	32,314	純資産	27,104

(注) 2020年5月12日効力発生の減資による、資本金からその他資本剰余金への振り替えを考慮した場合の数値

Vision : 未来のソフトウェアを形にする

- 現在、様々なデバイスから収集されるデータがアルゴリズムによって学習され、ソフトウェアは智能化し始めています
- 各種ソフトウェア・ハードウェアを智能化していく「未来のソフトウェア（＝アルゴリズム）」を形にすることをコーポレートミッションに、事業展開を加速してまいります



(Appendix) 会社概要

- 人工知能技術分野のアルゴリズム（言語解析、画像認識、深層学習 等）をライセンス販売するアルゴリズムライセンス事業を展開しております。
- 最先端のアルゴリズム開発から各種ハードウェア/ソフトウェアへの実装までをワンストップで行っており、情報科学分野の研究者・エンジニアにより構成されております。

資 本 金	125億6,052万円（2020年3月末）
設 立	2012年10月
本 社 所 在 地	東京都文京区本郷二丁目35番10号 本郷瀬川ビル4 F
従 業 員 数	235名（2020年3月末）
事 業 概 要	アルゴリズムライセンス事業
代 表 取 締 役	上野山 勝也（工学博士 元松尾研究室 特任助教）
取 締 役 事 業 開 発 本 部 長	山田 尚史（弁理士 元松尾研究室）
取 締 役 経 営 管 理 本 部 長	中田 光哉
社 外 取 締 役	水谷 健彦（株式会社JAM 代表取締役）
社 外 取 締 役	吉田 行宏（株式会社アイランドクレア 代表取締役 ／株式会社LIFE PEPPER 代表取締役 ）
常 勤 監 査 役	藤岡 大祐（公認会計士）
監 査 役	下村 将之（弁護士）
監 査 役	佐藤 裕介（株式会社ヘイ 代表取締役社長 ／株式会社フリークアウト・ホールディングス 取締役）
技 術 顧 問	松尾 豊（東京大学大学院工学系研究科 教授）

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。